

外国語教育とICT活用の充実を軸に、 地域を担う「唐津大好き」っ子を育てる

佐賀県 ^{からつ}唐津市教育委員会 教育長 ^{のりやす}栗原宣康

くりはら・のりやす 佐賀県の公立中学校教諭を経て、佐賀県教育委員会指導主事、唐津市立中学校教頭・校長、東松浦教育事務所所長、佐賀県教育庁学校教育課参事を歴任。2018年4月から現職。

地域の将来を担う人材の育成 を図る5つの重点施策

離島の小規模校から、児童生徒数約1,000人の大規模校まで、教育環境が大きく異なる51の小・中学校を設置している本市ですが、いずれの学校でも育てたいのは「友だち大好き、学校大好き、家族大好き、唐津大好き」という子どもです。

私の教え子で、海外留学後、地元に戻って唐津焼の陶芸家になった方がいますが、視野が広く、チャレンジ精神にあふれています。友だちや教員との豊かな関係性と家族の愛に育まれ、自然や歴史の魅力あふれる唐津のまちで、地域でも世界でも「生きる力に満ちた人」を育てたい。そうした思いを実現するため、2021年度に定めた「唐津市教育の基本方針」では、「地域の将来を担う人材の育成」に関して、重点的に取り組むべき5つの施策を掲げました。

1つめは、唐津の自然や伝統・文化の体感を通して、社会の一員としてのルールを守り、貢献しようとする心や他者を思いやる心など「豊か

な心」を育むことです。そのための取り組みの1つが、「いきいき学ぶからつっ子」育成事業です。学校・校区の実態に合った取り組みに対して補助金を交付し、豊かな心で自ら学び、成長意欲に満ちた児童生徒の健全育成を図ります。例えば、唐津焼の陶芸体験や、国内有数の棚田を使った米作り、日本三大松原の海岸清掃など、唐津の自然、伝統、そして地域の方々の力を生かした活動に参加する中で、子どもたちは唐津の魅力に触れながら成長しています。

自信に満ちた人生を創造する 「確かな学力」を育む

重点施策の2つめは、子どもたち一人ひとりが能力を発揮し、自己実現を図り、自信に満ちた人生を創造できるように「確かな学力」を育むことです。そのためには、各学校での授業改善が欠かせません。本市では、全市統一の「学力向上アクションプラン」を策定し、PDCAサイクルを回しながら、カリキュラム・マネジメントに基づく授業実践を継続

できるよう支援してきました。

重点施策の3つめは、運動習慣を定着させ、「食育」を始め日常生活における体育・健康に関する活動の実践を促し、「健やかな体」を育むことです。なわとびやドッジボールラリー*1などの優秀学校・学級を表彰する、県の「スポーツチャレンジ事業」に参加することで運動の機会を増やし、毎年、本市の学校・学級が入賞しています。

英語4技能検定の結果を分析し、 外国語教育の指導を改善

そして重点施策の4つめが、異文化・国際理解教育の推進と外国語教育の充実により、コミュニケーション能力等の向上を目指すとともに、ICTの活用などの時代のニーズに合った教育を推進することです。

外国語教育では、ALT11人に加え、小学校に英語専科教員を7人配置し、専門性を生かした指導を行っています。2019年度からは小学校3校をスコア型英語4技能検定の実施校に選り、受検結果を基に本市全体の

*1 2つのチームが向かい合って並び、1つのボールを使ってキャッチボールを行い、3分間に何回受け止めることができたかを競うゲーム。



指導上の課題を分析し、小・中学校の教員が合同で、授業内容や進め方の見直しについて話し合っています。

そうして、英語を使う必然性のあるゴールを設定したり、身近なテーマについて自分の考えを発信するスモールトーク*2を充実させたりして授業改善を進めました。検定では、4技能のうち3技能でスコアが上昇し、特に「話す力」のスコアに顕著な伸びが見られました。

ICTの活用で 教育環境の差も解消

ICTの活用については、2016年度には小・中学校のすべての普通教室に電子黒板を配置していましたが、2021年9月に1人1台端末の環境が整ったことで、端末を介して多様な意見を瞬時にやり取りすることが容易になりました。例えば、離島

の学校同士をオンラインでつなぎ、合同で授業を行うなど、小規模校の子どもたちも多様な考えに触れられるようになっていきます。

端末には、協働学習、一斉学習、個別学習で活用できるオールインワンソフトウェアを搭載しているので、授業での活用はもちろん、デジタルドリルでの学び直しや先取り学習など、各自が自分の理解度に応じた学びを実現する環境も整いました。端末は、離島での活用も考慮してLTE回線に対応しているのも、自宅で英語の音読に取り組み、録音した音声も提出するなど、家庭学習の充実にもつながっています。

キャリア教育の視点で これまでの教育活動の見直しを

最後に、重点施策の5つめが、家庭・学校・地域が協働し、子どもた

ちの発達段階に合わせて相互補完しながら、連携を強化し、家庭教育を支援することです。

地域の将来を担う人材の育成は、小・中学校9年間を通じたキャリア教育と捉えることができます。今後、キャリア教育の視点で、「自分たちがどのような子どもを育てようとしているのか」「自校の教育活動はそのねらいと照らし合わせて改善や精選の余地はないか」といったことを、小・中学校の相互理解も図りながら、確認していきたくと思っています。

児童生徒の数も教職員の構成も学校によって異なりますから、市全体として目指す方向性は示しながら、問題解決のための方法論はできるだけコンパクトに提示し、それぞれの教育環境に応じて柔軟に取り組んでもらいたいと思っています。各小・中学校が主体となった学校改革が進められるよう、サポートを続けていきます。

佐賀県唐津市 プロフィール

◎佐賀県の北西部に位置する。玄界灘に面し、「イカの町」として知られ、海と棚田を一緒に見られる光景は、「日本の棚田百選」にも選ばれている。ユネスコ無形文化遺産に登録された唐津神社の秋季例大祭「唐津くんち」、日本三大松原の1つ「虹の松原」など、多数の観光資源を有する。茶人たちから愛される唐津焼も有名。人口 約11万7,000人 面積 487.6km² 市立学校数 小学校33校、中学校18校 教職員数 約1,000人 児童生徒数 約9,600人 電話 0955-72-9158(学校教育課)

*2 「雑談」の意味があり、小学校高学年の英語教育で設定されている活動。あるテーマの下、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする。